

第10期 第2回 国立市ごみ問題審議会 議事録

日時 平成28年(2016年)7月26日(火)午後1時30分～午後3時30分
場所 国立市役所1階 東臨時事務室
出席者 山谷会長、丸本副会長、江川委員、大貫委員、河合委員、隈井委員、鈴木委員、十松委員、
信澤委員、前田委員(委員は五十音順)
事務局 武川生活環境部長、山田ごみ減量課長、深谷清掃係長、大倉清掃係主事、志田清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市のごみ処理の現状について

資料に基づき、国立市のごみ処理の現状について事務局から説明した。

2. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

(1. 発生抑制、2. 再使用)

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく行政による進捗状況の評価及び市民の評価(平成27年度分)について事務局から説明した。

【丸本委員】今回配布された資料1にページ番号を振ってもらうことは可能でしょうか。

【事務局】はい、可能です。この資料は次回以降もお使いいただく予定なので、ページを振りなおしたものを改めて配布させていただくということでもよろしいでしょうか。

【丸本委員】改めて配布だと、紙が無駄になってしまうので、ページ番号については自分たちで書いて対応するのが良いと思います。最終的な完成品はページを振ったものを作っていただきたいです。あと、先ほど口頭で資料の訂正箇所を説明していただきましたが、訂正箇所のフォントを変える等分かりやすくしていただけるとありがたいです。

【山谷会長】そうですね。変更箇所は分かりやすいほうが良いと思います。では、他に意見がある方いらっしゃいますか。

【江川委員】1の①ごみ減量協力店の導入なのですが、協力店が1店舗減少した理由というのは何でしょうか。

【事務局】店舗の廃業によるものです。

【江川委員】廃業による減少というのは仕方がないと思います。協力店の更新方法や、この制度はいつから実施されているのか教えてください。

【事務局】平成19年度にできた制度になります。一度ごみ減量協力店になっていただいた店舗については、継続して協力店となっております。1年に1回、店舗での資源回収の状況について確認させていただいております。

【江川委員】確認の方法はどのように行われているのでしょうか。

【事務局】郵送で、報告書を提出していただいております。資料3ページのようにごみ減量協力店の

取り組みをホームページへ掲載して紹介などしております。

【江川委員】ごみ減量協力店の制度が始まってから10年近く経ちましたが、何か効果などは感じられましたでしょうか。

【事務局】具体的な資料があるわけではなく、効果があったかどうかは明確ではないが、ごみ減量協力店の制度を始めてから、ペットボトルのキャップ等細かい物の回収を始めた店舗がいくつかございました。こうした取り組みをしてくださる店舗が出てきたところに、効果があったと言えるのではないかと思います。

【江川委員】そうですか。取り組み状況の一覧表をみていると、未だに牛乳パックなどの回収をおこなっていない店舗があります。そのような店舗への働きかけがもっとできていれば、C評価ではなくB評価を付けられたかもしれないですね。

【山谷会長】そうですね。では次に、十松委員お願いいたします。

【十松委員】はい。何点か質問があります。まず、1の②のくにたちカードエコロジーポイントとごみ減量協力店と何か関連性があるのか教えてください。

【事務局】くにたちカードエコロジーポイントは、商工会の制度となっております、必ずしもごみ減量協力店と関連があるものではございません。商工会加盟店の中でエコポイントを付けられる店舗がありまして、そこでマイバックを持参したり、牛乳パックを持ち込んだりすると、買い物で使えるポイントが付与されるという制度になります。

【十松委員】加盟店はどれくらいあるのでしょうか。

【事務局】商工会の制度なので、詳しい数字を把握していません。

【河合委員】私は商工会女性部なので説明いたします。約200店舗弱くらいの加盟店がございます。買い物して、レジ袋を断ると1ポイントもらえて、貯まったポイントは、1ポイント1円として使うことができます。

【十松委員】分かりました。あと、1の④事業系ごみの削減の項目にある、廃棄物等管理責任者というのは、防火管理者のように何か特別な資格を有する方のことなのでしょうか。

【事務局】特別な資格を有する方のことではないのですが、大規模建築物の所有者に対して、廃棄物等に関する責任者を選任してもらうという取り組みになります。

【十松委員】それと、1の⑤市が管理する施設での減量施策の強化に関して、括弧書きの数字は何を表しているものなのでしょうか。

【事務局】括弧書きの数字ですが、これは紙ごみの分量を表しています。説明書きが欠落してしまい申し訳ありません。

【山谷会長】ほとんどが紙ごみということですね。

【事務局】はい。紙ごみはリサイクルしていますので、リサイクルの状況を把握してもらう意味で、ごみの合計量と併せて載せております。

【隈井委員】この紙ごみはどのくらいリサイクルに回されているのでしょうか。

【事務局】括弧内の数字は、紙ごみを再資源化業者へ引き渡した量になりますので、全てリサイクルされていることになります。

【十松委員】分かりました。あと、1の⑥生ごみ減量の推進の項目にあるメール配信についてと、1の⑦生ごみ処理機等購入費助成制度の周知の項目にあるモニター事業について、詳しく教えていただけないのでしょうか。

【事務局】まず1の⑥の項目におけるメール配信については、国立市のメール配信サービスに登録していただくと配信されるものになりまして、翌日のごみ出し区分の案内や、ごみ分別におけるQ & Aなどを配信しております。ごみ出しメール配信については、約1700人の方にご登録をいただいております。1の⑦の項目にあるモニター事業については、平成25年度からミニ・キエーロのモニター事業を取り組んでおりまして、平成25年度と平成26年度におけるモニター参加者の意見を集計したものを市ホームページで公表しております。平成27年度からはミニ・キエーロの委託販売も実施しておりますので、販売実績を踏まえて今後の施策を検討していきたいと思っております。

【十松委員】あと、2の①（仮称）リサイクルプラザの設置について意見があります。リサイクルプラザそのものは設置ができていないけれども、幾つかの拠点でリサイクル事業が行えているのでA評価となっていますが、計画内容がリサイクルプラザの設置としているので、設置ができていない以上A評価というのは少し変だなと思いました。

【山谷会長】2の①の事業で扱っているリサイクル自転車というのは、粗大ごみに出されたものですか。それとも放置自転車として回収されたものですか。

【事務局】粗大ごみと放置自転車の両方でございます。放置自転車分の方が多いです。

【山谷会長】分かりました。他に意見ある方いらっしゃいますか。

【前田委員】前回の審議会で、目標が達成された事業は、事業計画から消してもいいのではないかという話があったと思います。例えば1の①ごみ減量協力店の導入について、ごみ減量協力店の認定数はもうこれ以上増えない状況ではないかという考え方もあると思います。そのような状況であれば、数よりも質を高めて行くことを計画とし、あるいは他の計画に集中して取り組んでいくべきではないのかと思います。その点について事務局はどのようにお考えなのでしょうか。

【事務局】この審議会は、今のような事業のあり方等様々な意見をいただくために設けさせていただいております。今おっしゃったことは、計画内容を変えたほうが良いのではないかという意見でよろしいでしょうか。

【前田委員】そうです。

【事務局】目標をこのように変更した方がごみ削減の効果があるのではないかという意見をいただき、次年度につなげていくことが、今年の審議会の目的でございます。

【山谷会長】そうですね。ごみ減量協力店という制度があることは、事業者へ様々な取り組みを働きかけるきっかけとなり貴重なものではないかなと思います。他に何か意見ある方いらっしゃいますか。

【隈井委員】評価の仕方について意見を言いたいと思います。例えば1の①ごみ減量協力店の導入について、協力店の数が減少したのは、お店の廃業なので、市役所ではどうにもできない部分だと思います。むしろ、減ったことではなく増やせなかったことに対して理由を書くべきではないでしょうか。ごみ減量協力店を増やすためのアプローチができなかったことがC評価の理由としないと、読み手に誤解を与えてしまうと思います。あとは、1の②の項目で牛乳パックの持参による付与ポイントが減少したとありますが、牛乳全体の消費量が減り、宅配業者など他のところでの回収が進んでいる場合だって考えられます。牛乳パック持参による付与ポイントが減ったのでC評価というのは、具体的な数字で分かりやすいのかもしれませんが、本当に評価の仕方として正しいのかについては疑問が残ります。なので、今後評価指標というのは慎重に考えられたほう

が良いのではないかと思います。目標として見込んだ数値に対しての結果を評価しないと、そもそも評価が難しいものもあります。また、2の①のリサイクルプラザの設置については、土地などを確保せず、色々な所と協力して実施できているので、これはこれで良いのかなと感じました。

【山谷会長】そうですね。数値として把握できるものは把握して、今後を活用していただきたいと思っています。

【事務局】こうした意見をいただくための審議会だと思っておりますので、ご指摘ありがとうございます。

【隈井委員】1の⑦生ごみ処理機等購入費助成制度のところですが、助成件数・金額は確かに、多少減っているのですが、例えば件数当たりの金額で見ると、かなり減っていることになります。数値を評価する際の観点なども今後考えてもらえればなと思います。

【前田委員】1の③販売店での資源物回収の推進なのですが、この計画の目標は、販売店での取り組みを周知していくことなのか、それとも具体的な数値によるごみの削減目標などがあるものなのでしょうか。

【事務局】この計画の内容が10年前に策定されたものになりまして、策定された計画では、周知を行っていくことが計画として表現されておりました。実際には、お店へ働きかけて行くことで店舗数を拡大させてきましたが、27年度の実績においては拡大までには至らなかったという状況です。

【前田委員】そうすると、やはり数値目標を計画の1つ1つ丁寧に設定していくことが大事なのではないかなと感じました。

【事務局】今回の審議会でもいただいた意見は、次年度に反映できるようにやっていきたいのですが、計画の数値目標というのが立てやすい事業とそうではない事業があります。さらには市ではなく、国が取り組んでいる部分というのもございますので、できる限りで努力をさせていただきます。

【山谷会長】全て細かくできればいいのかもしれませんが、やはり日常業務の中でやれることに限界はあると思います。そうすると、比較的把握しやすい指標で判断せざるを得ないところはあるのではないかと考えております。そこで、今回のA・B・C評価の中で、甘すぎる、厳しすぎると感じた評価など具体的にあればご発言お願いいたします。

【信澤委員】そもそも論ですが、AとB評価の差が判断しにくいと感じたのですが。

【山谷会長】計画によっては、特定の数値を取り出して、パーセンテージ化しての評価ができないものがあると思います。「明らかに他の自治体と比べ積極的に取り組んでいるのに、国立市では低い評価がされているのももう少し良い評価でもよいのではないか。」というような観点で評価せざるを得ない部分があると思います。

【河合委員】1の⑤の市が管理する施設での減量施策の強化ですが、前倒しで削減目標を達成していますが、B評価なのはなぜですか。

【事務局】たしかに目標は達成したのですが、もっと減らせるのではないかとこのところとでB評価としています。業務のタイミングによって、ごみ量が集中してしまうこともあるので評価が難しいのですが、平成27年度においては、実はごみ量が少し増えてしまったという状況もあります。

【隈井委員】目標が少し分かりにくいと感じました。そこか明確じゃないと、業務のタイミングでごみ量が増減してしまうので、評価を付けるのが難しくなってしまいます。市役所のごみは大半が

紙ごみなので、例えば通常使用量の紙の購入量を減らすような目標などが良いのではないのでしょうか。特別なイベントで必要になった分については、別に書いておくなどすれば通常使用分の削減効果が見やすくなると思います。

【山谷会長】ごみの品目別に、ごみの総量、内訳があると非常に分かりやすいですね。食堂があるので、厨芥ごみ・紙ごみ・その他ぐらいの区分とかでも出ると良いと思います。将来に向けて改善などができるといいですね。あと、1の⑦生ごみ処理機等購入費助成制度の周知で言及しているミニ・キエーロですが、私はこのミニ・キエーロは素晴らしい事業だと感じております。C評価となっておりますが、A評価でも良いのではないかと考えています。後の3の①生ごみ堆肥化の推進の項目であるように、モニター参加者が多数いらっしゃいました。A評価でなくても、B評価くらいはあげなくてはいけないと感じております。

【江川委員】ミニ・キエーロのモニターなどは多数やられていると思いますが、1の⑦の評価対象は、あくまで生ごみ堆肥化容器等購入費助成制度だと思います。実際に、ミニ・キエーロを扱っている3の①の事業評価はAとなっております。なので、1の⑦の評価はそのままで良いと思います。

【山谷会長】たしかにそうですね。わかりました。あと、一つ意見なのですが、1の④事業系ごみの削減で、大規模事業者に、資料7ページにあるごみの排出抑制に関する計画書を提出させています。この書類は、品目ごとの量ではなく、合計量を書くような様式なので、品目ごとのごみ量が分かればもっと良いと感じました。各事業所にどのような品目のごみが排出され、そのうちどれだけを資源化できているのか把握するのが重要だと思います。多摩地域26市では、国立市のように事業所でのごみの総量を記入させる様式が多いが、都内23区では、内訳まで書かせている自治体が多くありますので、参考にされてはどうかと思います。

【隈井委員】評価に関する意見なのですが、1の②のくにたちカードエコロジーポイントの推進で、先ほど述べたように、牛乳パックに対するポイント付与が減ったからといって、必ずしも牛乳パックのリサイクル量が減ったわけではないと思います。一方、買い物袋持参によるポイント付与は増えているので、そこを評価してB評価でも良いのではないかと考えました。

【十松委員】1の①で、ごみ減量協力店の数が減った理由が廃業で、市役所では対応できない理由なので、ここはCではなくB評価でも良いと考えました。

【隈井委員】ごみ減量意識の向上に貢献できたかどうかで、評価を考えたいですね。

【山谷会長】多摩地域の自治体では、ごみ減量協力店という制度を設けていない自治体が幾つかあるので、この制度を実施していること自体は評価に値するものだと思います。

【江川委員】資料3ページにあるように、事業所が細かく取り組んでくれているのは評価できることですよね。

【丸本委員】B評価でも良いとは思いますが、国立市で生活をしている実感としては、幾つかのお店の取り組み状況に疑問が残ります。全てのお店を利用しているわけではありませんが、取り組みをしてはいるけれども、積極的に行っていないので、あまりごみ削減につながっていないと感じるお店がありました。

【山谷会長】優良な取り組み事例を紹介されているのは、非常にわかりやすいものだと感じました。ただこの制度の活用についてはまだ十分活かし切れていない状況なので、C評価ということではどうでしょうか。

【丸本委員】確認したいのですが、市民による評価の欄は今後どうされるのでしょうか。

【事務局】市民による評価欄につきましては、意見募集の結果、意見がゼロでしたので、このまま記載無しの状態となります。

【丸本委員】わかりました。今回の意見募集に対して意見がゼロだったことについてどうお考えでしょうか。

【事務局】次回以降の課題ということで、周知が不十分だったのではないかと考えています。紙面の内容の工夫ですとか、新たな周知媒体がないかですとか、次回に向けて検討しなければいけないと考えています。

【丸本委員】市民からの意見としては、まず、分かりづらいという点が考えられるのかと思います。評価をするということが、どのようなものなのかを示してあげるなどが必要なのではないのでしょうか。評価を出したくても、どう出せばいいのか分からない人も多いのではないかと感じました。それと、前期第9回ごみ問題審議会の最終答申に関する意見交換会で、ちょっとした報酬がないとアンケートの回答が集まらないのではないかとのご意見が市民の方からあったかと思えます。またインターネットのアンケートサイトなどでも回答したら何ポイント差し上げますという方法もよく見かけます。報酬を与えるのが正しいこととは思いませんけど、世間的な風潮としてはアンケートの回答者に報酬を差し上げることが増加していますので、そういった方法などを踏まえて意見募集の方法を考えていくべきだと感じました。

【山谷会長】行政でアンケートの回答に報酬を渡すことは難しいと思いますが、今後、方法を検討していただくということでもよろしいでしょうか。さて、これまでのとりまとめとしまして、事務局原案の評価については、概ね変更なしということでもよろしいですか。それでは、次回の日程について案内お願いいたします。

3. その他

(1) 日程について

次回の審議会日程の確認をいただいた。

- ・第3回 平成28年9月20日(火) 午後2時から国立市役所1階東側臨時事務室

— 了 —